

環境福祉専門学校の社会福祉学科がオープンセミナー

2月13日、北海道環境福祉専門学校（宮島武彦校長）は農村環境改善センターで第9回社会福祉オープンセミナーを開きました。



2月13日、北海道環境福祉専門学校（宮島武彦校長）は農村環境改善センターで第9回社会福祉オープンセミナーを開きました。社会福祉学科の学生が地域で実践している福祉活動の発表公開セミナーです。例年同様にキャンパス内会場で開いてきましたが、今年は昨年発足した食育福祉学科の学生が参加した学外初開催になりました。

学生の活動発表がセミナーの中心ですが、今年は食育福祉学科の学生が手作りのカレーライスを会場の皆さんに初めて振る舞ったのが特徴。栄養バラ

晴天日和の忠別ダムイベントで歓声

2月20日、忠別ダムのダム下広場で忠別ダム冬のイベント「遊i n g忠別」がありました。

忠別ダム水源地域ビジョン「遊i n g忠別」（鈴木健治代表）の主催。イベント中晴天に恵まれた会場は、親子連れなど100人の参加者が雪の中で

楽しみました。今年で3年目のイベント。会場ではスノーモービルで雪中バナナボート乗り体験、タイヤチューブ滑り、スノートレッキング、宝探しゲーム、そして雪像作りコンテストで雪の遊びを満喫。会場に歓声がこだましました。遊んだ

楽しみました。

同校を進学候補の1校と考えている旭川市内の高校生も会場を訪れており、その活動ぶりに「すばらしいです」と感動したようでした。

音楽に合わせて楽しく手指運動の講演会



2月16日、農村環境改善センターで「音楽で楽しく健康に」と音楽療法講演会が開かれました。

老人クラブ連合会、しらかば学級が共催しました。講師は昨年10月東川消後の昼食は温かい豚汁に舌鼓。冷えた体を温めました。

会場では、今年も冬の雪の中でもしっかりと根付くという特殊な方法で雪中植樹も行いました。参加者の皆さんは元気な森に育つことを願ってカツラ、オニグルミ、エゾイタヤ、ドロノキ4樹種をセットにして60カ所に植樹しました。



新雪をかき分けて宝探しの参加者

新たな魅力ある食の魅力をアップ創造セミナー



2月15日、道の駅・ひがしかわ道草館で「食の魅力アップ創造セミナー」が開かれました。

町内の素材を魅力ある資源として開発しよう」と町観光地活性化・雇用創造協議会（藤田裕三会長）が開きました。町内の飲食業、観光業の方など約30人が参加しました。

講師は、町内で「定食おかめ」（西町9）経営の久末晃平、美穂さん夫妻昨年町内に生キャラメル工場（西町4）を退出した榎ノースプレインファーム営業本部第3部長・エスベリ才支配人の津田稔夫さん。久末さん夫妻は、東京の会社を脱サラ後、町内で定食屋を開業。開拓期に

ンスに気を配った学生手作りの昼食は、来場者から「おいしい」と好評でした。

「高齢者福祉への課題」「障がい者との関わり」「施設から在宅へ」「社会福祉学科のこれまでの取り組み」と4グループが発表。「卒業後、この経験を現場でさらに生かしたい」など意欲的発表が続きました。

キャンパスの「大会」過去最高を更新して大活躍



2月11日、キトウシ森林公園のキャンモアスキービレッジで第6回キャンモアGSL大会が開かれました。結果は各種大会成績（18歳）参照。全長861メートル、最大斜度23・93度、平均斜度14・29度25旗門のコースは、午前10時、競技開始時の気温氷点下3度、晴れの好天に恵まれました。

今年の参加者は、史上最高だった昨年大会を38人上回り、道内各地や遠く佐賀県、神奈川県から229人が19部

門にエントリーしました。ゴール地点ではわが子の活躍を見守る家族連れでにぎわい、声援が飛んでいました。大会は、毎回競技終了後のお楽しみ抽選会が人気の的。旭岳温泉のホテル宿泊券、東川米、町内の人気商品の数々や協賛スポーツ店からのスポーツ用品など豪華な賞品が当たると、「当たったあ」とあちこちから大きな歓声が沸いていました。

中央部スキー少年団大会で町内の子ども大活躍

1月23日、キトウシ森林公園のキャンモアスキービレッジで第28回上川中央部スキー少年団アルペン競技大会が開かれました。各種大会成績（18歳）を参照。レースは平均斜度13・53度、24旗門、634メートル。上川管内中央部の各町スキー少年団から60人がエントリーしました。

この日は小雪模様ながら穏やかな日に恵まれました。新雪のコースは柔らかな雪質で滑りやすいコンディション。地元東川大雪スキー少年団の子供たちが上位入賞を独占した階級もあり、子供たちは日ごろ滑りなれたコースで大活躍しました。

